

教室通信

高度情報人材の育成に向けた新たな取り組み

令和6年度 電子工学専攻長 米 澤 進 吾

最近の情報技術の進歩・広がりはすさまじく、日常生活の中ですら日々進化を感じる読者の方々も多数いらっしゃると思います。当然、大学での教育・研究においてもそれは例外ではなく、情報技術の重要性はあらゆる分野で日に日に高まっています。

政府としても高度な情報技術を持つ人材の育成を今後の国の行く末を左右しうる大きな課題と捉えているようで、令和5年度から大学改革支援・学位授与機構による「大学・高専機能強化支援事業 / 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援」が始まっています。このプログラムはデジタル分野の研究科や専攻の体制強化を図る取組に対し、最長10年間にわたって人件費や設備費等を支援していただけるというものです。しかし、初年度である令和5年度は京都大学からの申請はされておりました。そこで、工学研究科電気系2専攻と情報学研究科が中心となり、大学本部や工学研究科からの支援もいただきながらこのプログラムへの申請をスタートいたしました。また、専攻だけでなく電気電子工学科にも協力していただき、情報学科との授業協力など学部教育の変革も議論いただきました。

この申請の準備のため、電気系2専攻内にワーキンググループを立ち上げ、高度情報人材の育成を目指す中での我々電気系専攻の強みは何か、ということ問い直しました。そして、情報関連の教育・研究だけでなく実デバイスの教育・研究も充実している「二刀流」である点こそが我々の強みであるということが、専攻内の議論の中で認識されました。この強みを基に、さらに情報学研究科とも協力することで、情報（＝仮想空間）と実デバイス（＝現実空間）の両輪の知識・技能を兼ね備えた多角的視点を持つユニークな人材育成を図ることができるはずです。その目標に沿って、京都大学からは「仮想空間および仮想空間×現実空間で技術革新を推進し、情報化社会をけん引する京都大学の人材育成」というプロジェクト名で申請を行いました。

幸いなことに、令和6年6月に採択のご連絡をいただき、しかも、極めて高い効果が見込まれるとしてより高額の支援をいただける「ハイレベル枠」に選出していただきました[1]。令和6年度採択のプロジェクトの中で、このハイレベル枠に採択されたのは京都大学ただ1件であり、非常に光栄に思う一方、今後プロジェクトをハイレベル枠にふさわしい水準で進めていく責任に身が引き締まる思いも致します。

現在、電気系2専攻ではこのプロジェクトを実行するための様々な施策を検討・準備しております。特に、令和7年の1月より、浅野先生と船戸先生にこのプロジェクトの特任教授にご着任いただきました。お二人にはこのプロジェクトのエンジン役として大いに活躍いただけることと思っております。また、電気電子工学科にも学部教育改革の面の準備に多大なるご協力をいただいています。その他にも、まだ申し上げられない内容の準備も多数推進しております。次号以降でも電気系2専攻や電気電子工学科のあらたな体制や取組みについて順次ご紹介できればと思います。

[1] <https://www.niad.ac.jp/josei/report/r6selection/>